

平成25年度第1回国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

平成25年5月1日（水）14:00～

運営委員出席者

笠井委員長、村田委員代理（松本委員）、浜田委員代理（塚田委員）、片岡委員、永澤委員代理（棚橋委員）、山内委員、太田委員、尾崎委員、松倉委員、瀬川委員、目黒委員、山中委員、大島委員

計13名

大雪青少年交流の家出席者

機構本部 大木総務企画部長，三上所長，小堀次長，佐藤事業推進室長，小川事業推進専門職，秋山管理係長，澤田総務係長，松浦企画指導専門職，佐々木企画指導専門職，伊藤企画指導専門職，英企画指導専門職，谷崎事業推進室主任，安藤事業推進室主任，平間事業企画専門職員，遠藤総務係主任

計15名

- 14:00 開会宣言（事務局）
- 14:01 三上所長より挨拶
- 14:03 会議時間及び資料の確認、欠席委員の報告、施設業務運営委員及び職員の自己紹介、笠井委員長による議事進行を確認（事務局）
笠井委員長による議事進行
説明の都度質疑応答を行う旨確認
説明を始めるよう指示
- 14:19 「平成24年度の施設運営状況」について説明（事務局）
○ 交流の家の歴史
○ 利用状況
○ 利用者の総合的な満足度
- 【質問・意見・感想】
- 14:39 委員A 「感想：利用者の推移をみると、24年度はあらゆる手段をもって利用者獲得に向けて努力したと思います。所長以下職員の皆さんお疲れさまでした。私は日本青年団体協議会の会長として、道内はもとより全国各地の施設を利用する機会が多いです。例えば、機構本部が22年から力を入れている、「体験の風」をおこそう運動は、他の国立施設は、敷地内にしか「のぼり旗」が設置されていないことが多いが、ここは違います。来る途中、駅前や役場前を通ってきたが、ポイント毎に設置されている。それも、民間の施設や自宅前にも設置されている。美瑛町の「大雪」を思う気持ちが伝わってきました。だから、「大雪」も地域貢献しているのだと感じました。」
「次は質問：月別の利用状況です。年度の後半は必死に数字を伸ばしていった。だから閑散期は23年度より利用が増加したと思

ます。しかし、一方5月・6月の落ち込みが気になります。この時期は、主として中学校や高等学校の宿泊研修が中心だと思うが、単に子どもの数が減って全体の数字が落ちているのか、事務局の分析を伺いたい。」

【回 答】

14:42 事務局 「学校数、児童数の減少はもとより、他施設と掛け持ちをする団体もあり、利用3週間前にキャンセルする団体もあります。キャンセルが入ると、時期的に取り返しが困難です。国立は400人キャパ、道立は200人キャパです。例えば1学年200名を超えると宿泊キャパは「大雪」となるが、生徒数の減少により、190名となると、道立（公立）の方が「全館貸館」として利用できるのです、学校団体としては勝手がよい。手当が必要です。」

14:44 委員長コメント

今日は「新しい公共」型の管理運営について審議・協議することになっているので、「新しい公共」型の管理運営について、進めていきたいと思っております。このことについては、昨年度からの方は、9月12月の委員会で説明を受け、さらに、今年になってから運営計画等の策定に関わり事務局から様々な文書等で示されていますので、一定程度御理解していると思っております。しかしながら、新しい委員も加わったことから、復習の意味も含め再度説明していただければと思います。

14:26 「新しい公共」型の管理運営（事務局）

- 新しい公共とは
- 試行実施施設
- 試行期間
- 取組内容
- 委員会の役割

【質問・意見・感想】

15:07 委員B 「確認は3点。1点目は「12月27日に試行的実施の基本方針が出されてるのは、前回の会議、また、紙面会議の折に見ているが、25年度は試行的に実施だが、26年度は25年度の自己点検・評価を踏まえ、本格実施するということによいか」2点目は、「12月27日に試行的実施の基本方針6の運営協議会委員の任命等に（3）に機構本部より手当を支給するとなっているが、参考までに、この「手当」とは、こうした会議に出席したときの謝金・旅費を除いたものと考えてるが、何をどのように指しているのか教えてほしい。」

3点目は「前回、所長の説明の中で『質の高い職員』の任用について話があったが、先ほどの説明を聞く限りでは「なし」「困難」と聞こえたが、その理由は何か。」

【回 答】

15:11 所 長 「1点目の回答は事前配付資料4国立青少年教育施設における「新しい公共」型の管理運営に向けた試行的実施の基本方針に記載がありますが、試行期間は25年1月1日～26年3月31日まで、26年4月1日から本格実施になります。2点目の質問ですが、予算的には、文部科学省からの委託費が機構本部に支出されると聞いています。5施設で300万円のようなようです。1施設当たり平均60万円となり、手当については、現在の謝金になります。別に月々支給されるものではありません。3点目の回答ですが、文部科学省からの委託費では賄いきれないので、運営費交付金で本部から追加配分されるとのことです。しかし、当所で要求したのは2名分ですが圧縮され1名分となる見込みです。非常勤職員の採用については、今までどおりのハローワークではなく、委員の皆様方の意見を幅広く聞きながら人材確保をしていきたいと考えています。」

15:20 委員長確認

「多様な主体が、1 教育施設の管理運営・2 事業の企画・実施に参画と説明していましたが、確認ですが、この委員会は「審議会」の機能ではなく協働して「参画」する、いわゆる、委員と「大雪」が協働してアクションプランを立て、協働してアクションを起こす。すなわち、計画・実践・評価・行動を起こすという考えでよいか。」

【回 答】

事務局 「仰せのとおり」

【質問・意見・感想】

15:21 委員C 「2点あります。1点目は「これまで、大雪職員が様々な角度から予算編成したり、事業計画を立ててきたが、今回から「委員会」と協働作業になることで、逆に「大雪」の職員は動きづらくなるかということ」

2点目は「新しい公共」は、社会教育だけではなく、学校教育にも導入され、趣旨は時勢がら理解できるが、先ほどの説明では、地方施設が「試行」していて、機構本部、オリンピックセンターは、この「新しい公共」型の管理運営の試みは行わないのか、また、行っているならどのようなことを行っているのか伺いたい。」

【回 答】

15:22 事務局 「1点目については私からおこたえします。職員全体が高い評価をもらえるよう努力している。これを機会に「大雪」は生まれ変わる。国民の皆様に情報公開したなかで、ナショナルセンターとしての役割を果たせると確信しています。2点目については・・・所長、お願いします。」

15:23 所 長 「本部で実施している、「体験の風をおこそう！」・「早寝早起き朝ご飯」は、国民運動ですから、これは「新しい公共」型。また、文部科学省受託事業がなくなったが、「自然体験指導者養成研修」については、本部と自然体験推進協議会（CONE）が連携して新たに自然体験指導者を養成し、認定する制度を構築中である。」

15:26 「運営計画指針」について説明（事務局）

○ PP をもとに、委員会の総意で策定されたことを報告。また、紙媒体の「運営指針」「別紙集」の内容の確認も行う。特に、数値化を図り、そのことが、年度末の自己点検や評価に発展することを伝える。また、本年1月中央教育審議会答申にも触れ、国立の施設が変革期を迎えていることを伝える。

特に、「重点推進事項の体験風」の取組、委員会が主導する「ゆーすフェス2013」・「びえい雪遊び広場」を重点的に説明する。

15:33 委員長

「運営計画は、紙面会議で進めさせていただきました。皆さんの意見や考えのシートをいただき、事務局と協議して、ほぼすべての内容が反映されています。こうして、紙面のなかでもやりとりができるということが理解できました。今回の運営計画・運営指針は、まさしく、委員と「大雪」の協働作業の賜ではと思っています。何か、ご質問や確認する点、さらに、私たちは、予算等について機構理事長に意見をのべることができますので、その辺も含めてご発言ください。」

【質問・意見・感想】

15:33 委員A 「運営別紙2-1に教育事業の計画が掲載されている。大きく4領域から編成されているが、普及啓発として、「子どもゆめ基金リレーションシップ」事業が4本ある。事業の目的は何となく書いているから理解できるが、なぜ、「子どもゆめ基金リレーションシップ」の名称なのか教えてほしい。」

【回 答】

15:34 事務局 「子どもゆめ基金と体験の風リレーションシップは別のものと押えて下さい。ゆめ基金は民間等の団体が主催する青少年のための事業に対して助成金の交付をするものであり、体験のリレーションシップは地方施設と機構本部28施設でゆめ基金の普及をねらうために実施しているものです。リレーションシップは、過去にオープンドリーム事業と呼んでいました。我々が手に手を取り合って子どもの将来のために取り組んでいくための基金であり予算です。」

【質問・意見・感想】

15:37 委員D 「2つお伺いします。1点目、運営計画「別紙4」の予算計画について質問です。人件費がマイナス200万強だが、その理由は何故か・2点目管理費の「業務委託経費」「燃料費」がかなりの割合を占めているようだが、具体的な内容を教えていただきたい。」

【回答】

15:37 事務局 「人件費（非常勤職員）230万減となっていますが、昨年度までは、身障者雇用枠での職員がいましたが、今年度は任期満了で身障者雇用枠での採用がなかったために減額となっています。また、業務委託費の主な内容は、ボイラー保守管理、清掃業務、プール監視業務等がございます。燃料費については、大半が冬季の暖房使用に伴う重油代と除雪に使用する軽油代となります。」

【質問・意見・感想】

15:42 委員E 「その他運営経費」が496万と記載されているが、具体的にどのような経費か。もう一つは、国の財政も厳しく、独立行政法人の予算も厳しいのではないかと思う。施設の老朽化が進んでいると思うが、施設の維持管理上の問題や工夫していること。また、大規模改修の事例があったら情報をいただきたい。」

15:43 【回答】

事務局 「その他運営費については、雑費的な物、例えば通信運搬費、事務用品、10万円以下の修繕等になります。また、大きな工事等については、ライフライン再生計画をたて、本部へ要求していきたいと考えています。」

【質問・意見・感想】

15:48 委員F 「先ほど、業務委託について話しがあつたが、参考までに契約方法やルールがあれば教えてほしい。」

【回答】

事務局 「100万円以上、一般競争（入札）については、入札公告等の事務作業を含め機構本部で行っている。また、100万円以下の物件等は（随意契約）、地方施設で行っています。」

15:50 委員長

こうした質問がでるのも、この後説明がある、部会を少しでもスムーズに進めようとの考えからだと思います。1年間の指針になりますので、もう少し理解を深めたいものがあればお話しください。

【質問・意見・感想】

15:50 委員G 「運営計画「別紙5-2」に人材育成基本計画の概要版があります。非常に系統的・計画的に組まれていると思います。ところで、研修の講師は誰が務めるのか。」

【回答】

15:51 事務局 「内容により異なりますが、職場内では対応できるものは「所長」「次長」を中心に進め、北海道の教育の現状や課題については、本日代理出席いただいている上川教育局の担当者、さらに、安全管理危機管理等は、大雪消防組合などに依頼しています。また、コミュニケーションについては、先日の事業TCP（大雪コミュニケーションプログラム）を職員研修にあて、富良野演劇工房フラノクルエイティブシンジケートの皆様をお願いしています。この機会を利用してお願いがございます。たとえば、「不測の事態に備えた報道対応」メディアトレーニングは、絶対に必要との認識ですが、正直、あまり自信がないのが本音です。今回、報道関係の委員がいらっしゃいますので、どなたかに講師をお願いできればと思っていました。参考までに、実施日は6月4日です。後ほど、部会の中で相談させていただきます。」

【質問・意見・感想】

15:54 委員F 「PPの資料にもありましたが、『「開かれた施設」「わかりやすい施設」が理想です。運営計画や委員名簿、会議録など可能と思われる範囲で公開してはいかがでしょうか。』とありました。私は透明感が施設を明るくすると思っています。このことで私たちも「役割」や「責任」が明確になると思います。前向きに協議したいと思いますがいかがでしょうか。」

【回答】

15:54 事務局 「貴重な御意見ありがとうございます。職員の中でも、もっともっとホームページを工夫して地域とともに歩む「大雪」をPRできないかと話題になっています。この部分は、掲載することを前提に後に行う広報部会に委ねたいと思います。」

16:00 委員長

「それでは、次に「広報全体像」について説明をお願いします。」

16:01 「広報の全体像」について説明（事務局）

PPをもとに、説明

- 今までの広報・これからの広報
- ナショナルセンターの使命をふまえた広報
- 現状と課題
- 広報実績と結果の推移
- 研修利用の促進
- 広報活動案と目標数値

16:15 機構本部大木総務企画部長からの総評及び挨拶

「大雪では、「新しい公共」型の管理運営について、十分趣旨をご理解されていて、今後の展開を期待したい。今年度試行の施設については、年何回か所長に本部に来ていただき、状況報告をお願いしたいと考えている。」

16:17 会議終了

16:18 事務局

このあとは、3部会それぞれに別れ、2回目の部会予定の確認を行う。

16:19 閉会宣言

16:20 広報部会

広報部会顔合わせの後、各委員から以下のとおり提案があった。

- ①フェイスブックを活用し、広報活動を行った方がよい。まずはそこから。
- ②事業等の催し物について、その都度FAX等で情報提供してほしい。持っている枠内でPRできることもある。
NHK旭川放送局では、Web、放送、携帯と連携して地域貢献を行っている。取材して放送するだけではないので、NHK旭川放送局のHPにある、「わが街のいちおし!!」及び「道北LOVEスナップ」に写真投稿してほしい。HPに掲載されれば、国立大雪青少年交流の家からこういう写真が届きましたというような放送ができる。
今後会議型の部会には出られない可能性が高い。アイデアを出したりって言うよりは、実際の広報のお手伝いならできる。(上記内容)
- ③FAX等で情報提供していただければ、「このまちだより」という番組で放送できるかもしれない。
一度会社に来てもらい、制作担当者と顔合わせしたほうがいい。
- ④今年度も季報やML、その他いろいろ協力します。

事務局

FBに関しては広報委員会で検討(前向き)し、運用方法等すみやかに定め実践する。

NHKにはその都度しつこいくらいにFAXさせていただく。

ケーブルテレビも無料でできる範囲で最大限活用させていただきたい。今度製作担当者にお会いしに行きます。

NHKやケーブルテレビが主催しているコンテストに広報委員会(職員)で応募する。

商工会議所も担当者が変わっているので、また、ご挨拶に伺います。

今後、部会長に、こちらから連絡をして、部会の調整は部会長に行なってもらいたい。

事業部会

今年度本部会で審議するテーマとして、次の2点について概要説明を行った。

- ① ゆーすフェスタ2013の企画・立案
- ② びえい雪遊び広場の企画・立案

管理部会

今年度本部会で審議するテーマとして、次の2点について概要説明を行った。

- ① 人事（非常勤職員）優秀な人材の確保
- ② 50周年（H28）に向けての寄附金の確保

第2回の審議は6月開催を予定とし、後日、各委員に開催日の都合について照会することとした。

16:30 部会終了